第２章　教育を取り巻く現状と課題

近年、生活の多様化や少子高齢化、核家族化の急速な進展など、私たちを取り巻く社会環境が大きく変化しています。

それにともなって、これまで地域や家庭で培ってきた教育力が低下し、他者を思いやる心、規範意識や道徳心、自立心など、私たちが大事に育んできた人間としての力が失われつつあると言われています。

私たちの生活の姿も激変しました。物質的な豊かさと利便さを追い求める中で失ってしまった大切なものがいくつもあります。例えば日常生活で活字を通して考えることや読書の大切さがおろそかになっています。また、生きる上で、最も基本となる食べることについても飽食のなかにあって、食の豊かさ、便利さにひたるあまり、食の本当の意味を見失いがちになっています。

子どもたちの生活や学習を取り巻く環境も改めて申すまでもありません。

学校では、これまで子どもたちの変化を注意深く見つめ、その対策を進めてきました。そして今、学校と家庭と地域とが、それぞれの持つ役割と機能を発揮し、手を携えて子どもたちの成長を支えて行こうとしています。

この三者連携の具体的な実践が、学校、家庭、地域の教育力の強化に繋がるのだと思います。

私たちの生活には、本市の豊かで美しい自然の中で営まれ、築きあげられた輝かしい歴史と文化が確かな形で受け継がれてきました。そして、その歴史の中で幸せを求めて、真摯に生きた幾多の先人たちの努力と知恵は、本市の品格を形成する生活文化として継承されて、今日に至っており、それがこれまでの4次にわたる寒河江市振興計画実施の中に具現化されています。

「情報に強いカラフルな都市」「自然と環境に調和する美しい交流拠点都市」を目指した先進的な取り組みは、「日本一さくらんぼの里」「神輿で躍動するまち」「花・緑・せせらぎで彩る寒河江」として、本市の特性を活かした活力あるまちづくりに結実してきました。

大自然の美しさや歴史・文化に感動する心、明日に向かう活力は、市民、地域、企業など幅広い分野での協働の心とまちづくりへの熱い思いとなり、たくましい創造力と行動を生み出しています。

独創的な生産活動や児童生徒をはじめ市民の各層に及ぶボランティア活動、グランドワークによる協働など、これらはそのまま本市の豊かな教育的資源であり学びの場となっているのです。

教育を論ずるとき、よく「不易と流行」という言葉で語られます。

これは、教育の本質として変わってはならないもの、即ち「不易なもの」と時代や世の変化に的確に対応するために変化していくもの、即ち「流行するもの」とを明らかにしながら教育に当たることの大切さを表しているものです。

私たちは、今改めて、本市の歴史と文化、さらにはこれら教育的風土に学び、その中から「寒河江市の教育の不易」を確かめながら「寒河江市の教育の流行」を実現していかなければなりません。

このような中、平成18年12月には改正教育基本法が公布・施行され、平成20年3月には、新学習指導要領が告示、同年7月には国の初めての教育振興基本計画が策定され、これから進むべき教育の方向性が示されました。

こうした国や県の教育の方向性を踏まえ、「不易と流行」を見極めながら、寒河江市教育振興計画を策定し推進します。

この教育振興計画では、「読書の盛んなまちを創ろう」、「いのちと心を育む食育をみんなで考えよう、そして実践しよう」、「家庭、学校そして地域が力を合わせて、子どもたちを守り育てよう」など、多様な入り口を設けました。

この入り口から中に入り、各人の課題に立ち向かい、それぞれの取り組みの中で、目標を実現して欲しいと思います。

そのことが「歴史と文化が織りなす、気品ただよう美しい都市・寒河江」を実現する、新しい時代を担う力を育むことになります。

グラウンドワーク

地域住民・企業・行政の三者がパートナーシップを組み、それぞれの力を出し合って（協働して）身近な地域の環境を継続的に再生、改善、管理する活動。